



ジョイントして才能を伸ばしませんか

技術者ネットワークを広げる SOHOプロジェクトリーダー

インターネットの進展で、自宅に居ながらネットワークシステムを利用したビジネスが可能な時代を迎えている。そうしたビジネス形態はSOHO（ソーホー＝Small Office Home Officeの略）と呼ばれ、企業に雇用されず独立しているケースが多い。また職種的には、Webデザイナーやシステムプログラマー、システムエンジニアなど専門性の高いことが特徴である。

脚光をあびるこのSOHO業界で、関西在住の技術者を互いに結び付け、次々と新しい仕事を成功させているのがSOHOプロジェクトリーダーの平松則子さん。SOHO技術者集団「Joint + b（ジョイントビー）」の代表である。

ところで、独立して仕事をしているはずの技術者が、なぜ平松さんの提唱する集団に参加す

るのだろうか。

平松さんは言う。「確かに技術的に秀でている人が多い。その上、単体だから融通がきくし仕事のスピードも早く、コスト的にも安く上がるなどが“売り”になっています」と。

ところが「SOHOなりの欠点がある」と、言葉を続けるのだ。「会社組織のように、完成された仕事が出来ない。すごい技術を持っているのですが、営業に行って挨拶ができない。あるいは、逆に営業できる人が、ある部分で欠落していたりします。オタクってというか、一芸に秀でている人は、どこかで秀でている分だけ穴があいているように思うのです」と。

こうした技術者のもつ“穴”を埋めるため、依頼のあった仕事に応じてその都度、技術者の中から技術や個性を考慮したプ

ロジェクトを編成し、仕事を成功に導くのが平松さんの役割である。

ちなみに、集団名のジョイントビーとはjoint brain（脳みそをつなぐ）を略した造語で、「いろんなジャンルの専門家をつな



いで、依頼主に感謝してもらえ
るいい仕事をしたい、という考
えの下に集まった技術者集団」
ということになる。

関西中心に 数十人の大所帯に

たとえばホームページを作成
する場合 -。「依頼主の会社の営
業項目や担当者がどう発信した
いのかを全部把握して、それを
形にするという仕事です。で、
私が経営コンサルタントとコピ
ライター、デザイナーとプロ
グラマーとをディレクション
して、メンタル面も含めて真ん
中でつないでいる」と。これに
よって、技術者は、不得手な営
業に時間を取られることもなく、
得意分野の仕事に打ち込めると
いうわけである。

創立は1996年4月。「特に募集
や呼びかけもしていない」にも
かかわらず、システムエンジニア
やシステムプログラマーのほか
Webデザイナー、Webプロ
デューサー、インストラクター
など、今や「関西を中心に数十
人」という大所帯に。また仕事
の内容も、Webサイト作成やシ
ステム開発関連はもちろん、印
刷物制作からITコンサルティング
、パソコンクリニックまで幅
広い。

「誰もがみんな素晴らしい特
性を持っています。それをつな
ぎ合わせることで、1人ひと
りの夢を実現させることが可能
なのです」と、SOHO集団を牽引
する平松さんだが、これまでに
至る道が平坦だったわけでは
ない。

図面トレースから Webプロデューサーへ

大阪市内で生まれた。「母と祖
母が、ああしなさいこうしな
さいとすごいスパルタでして(笑)
。まあ愛情のひとつの表れなん
でしょうが、その中でばーっと
生きているから、もう本読んで
いるだけでいいやと。反論しな
い、おとなしい子でした」。

20歳で結婚し、まもなく2人
女の子に恵まれる。夫の転勤で

埼玉県所沢市に引っ越すのだが、
平穏な生活が長く続くことはな
かった。まもなく、幼い子ども
を見ながら、仕事を探さねばな
らない状況に追い込まれる。知
人から「印刷屋さんなら、ト
レースの仕事がある」と聞き、
頼み込んだ。経験も全くない素
人だったが、バブル期で超多忙
だった不動産専門の印刷会社か
ら仕事を貰えることになる。

担当者からペンの持ち方や線
の引き方を教わり、家に持ちか
えてマンションの間取りなど
をトレースした。「5時間かけて
仕上げた1枚を、こんなの仕事
じゃないと怒られ破られた」と
いう厳しい担当者の下で、1ヵ月
後には15分で仕上げた作品が
パスするまでに上達していた。こ
の経験が、現在の平松さんの出
発点となる。

離婚して帰阪してからも、ト
レースを続けている。幸い仕事
は「あふれるほどあって」近所
の主婦や知人にも回すほどだ
った。このころ平松さんの中で
「人と人の脳みそをジョイント
させる」という志向が芽生えは
じめていた。

一方で、人の間に立つことで
トラブルにも遭遇するようにな
る。「人の心理」に関心をもち
はじめた平松さんは、心理学や
医学、宗教学や精神世界など心
の分野の勉強を始める。講座に
通い、本からも知識を仕入れ
た。仕事や育児の合間をぬって
の勉強だった。

やがてバブルがはじ
け、仕事もトレース専
門からチ
ラシなど
版下関係
にシフト
しつつ
あった。
業界では
文字も図
面もこな
せるパー
ソナルコ
ンピュー

ターが導入されつつあり、まも
なくインターネットの時代を迎
えようとしていた。

「これからは動画も音声もイ
ンターネットでやりとりできる
らしい、これはいっちょ、かん
どかないと(笑)」と、書物を参
考にホームページを作り、パソ
コンでの様々なコンテンツ作成
をマスターするのである。これ
らのほとんどを「独学でマス
ターした」というのだから、そ
の努力は脱帽ものだ。

SOHOプロジェクトのジョイ
ントビーを立ち上げたのは、帰
阪して9年後の96年。同年に再婚
し、翌年、3女に恵まれている。

昨年、自宅近くのオフィスか
ら文科・芸術系の人達が集まる
コミュニティスペース「Salon
de AManTO(サロンドアマン
ト)」に拠点を移した。人の輪を
広げ、ビジネスチャンスの広
がりも期待してのことだ。

「人と人、いわば有機細胞が
どんどん膨らんでいって、お互
い繋がることでもっと才能を伸
ばせる環境が広がってくれば、
それが私の野望というか、夢な
んです」

(文・脇本勤 / 写真・高島悠介)



Salon de AManTO サロンドアメント(写真提供:平松さん)



平松 則子さん

トレースや版下の仕事をこなす。その一方で、心理学や宗教学など心の分
野の勉強を続け、94年にはカルチャースクールで講師に。また本業ではIT
関係の仕事にも進出し、96年、個人事業者をつなぐSOHO技術者集団
「ジョイントビー」を設立。現在は組織をさらに拡大させるため、コミュニ
ティスペース「Salon de AManTO(サロンドアメント)」を拠点に奮闘中。